



平成21年3月期 第1四半期決算短信(非連結)

平成20年7月30日

上場会社名 株式会社 トリドール 上場取引所 東
 コード番号 3397 URL http://www.toridoll.com
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)栗田 貴也
 問合せ先責任者 (役職名)経理部長 (氏名)若山 義晃 TEL (078)200-3430
 四半期報告書提出予定日 平成20年8月12日

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第1四半期の業績(平成20年4月1日～平成20年6月30日)

(1) 経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第1四半期	5,144	—	611	—	604	—	308	—
20年3月期第1四半期	3,646	—	302	—	282	—	113	—

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
21年3月期第1四半期	5,026	76	—	—
20年3月期第1四半期	1,954	87	—	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円	銭	
21年3月期第1四半期	9,744	3,736	3,736	38.3	60,869	94		
20年3月期	8,424	3,544	3,544	42.1	57,738	10		
(参考) 自己資本	21年3月期第1四半期	3,736百万円	20年3月期	3,544百万円				

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金									
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末		期末		年間	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
20年3月期	—	0	00	—	1,900	00	1,900	00	1,900	00
21年3月期	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	0	00	—	2,400	00	2,400	00	2,400	00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 : 無

3. 平成21年3月期の業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期累計期間	10,600	—	920	—	890	—	390	—	6,352	82
通期	22,500	36.7	1,790	23.6	1,720	24.1	750	27.0	12,216	97

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 : 無

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

〔注〕詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。〕

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

② ①以外の変更 : 無

〔注〕詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。〕

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

21年3月期第1四半期

61,390株 20年3月期

61,390株

② 期末自己株式数

21年3月期第1四半期

一株 20年3月期

一株

③ 期中平均株式数(四半期累計期間)

21年3月期第1四半期

61,390株 20年3月期第1四半期

58,093株

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 当会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

2. 上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

・定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国経済は、原油価格の高騰に伴う物価上昇及び米国経済の景気後退懸念による円高の影響によって、企業の景況感も大幅に悪化しております。

当業界におきましても、個人消費が物価上昇率の加速に伴う実質所得の減少や消費者心理の悪化などにより弱含む中、業界各社の競争は一層激化し、厳しい状況が続いております。

このような状況の下、当社は、より収益性の高い丸亀製麺部門の出店を集中して業容の拡大を図ると共に、一層の経営効率の向上に努めてまいりました。

部門別の出店状況といたしましては、当第1四半期は、主力のセルフうどん業態である丸亀製麺部門において、17店舗(ロードサイド15店舗、ショッピングセンター内2店舗)出店し、当第1四半期末の営業店舗数は、全部門の合計で207店舗となりました。

この結果、当第1四半期の業績は、売上高5,144,750千円(前年同期比41.1%増)、営業利益611,385千円(前年同期比101.9%増)、経常利益604,393千円(前年同期比114.0%増)、四半期純利益308,593千円(前年同期比171.7%増)となりました。

①丸亀製麺部門

丸亀製麺部門では、ロードサイドに15店舗、ショッピングセンター内に2店舗を出店し、ロードサイドへの出店を加速させたことにより、当第1四半期では17店舗を出店し、当第1四半期末において125店舗となりました。

この結果、当部門の売上高は3,447,259千円(前年同期比95.0%増)となりました。

②とりどーる部門

とりどーる部門では、当第1四半期中に新たな出店はなく、当第1四半期末の店舗数は27店舗のまま増減はございません。

この結果、当部門の売上高は811,580千円(前年同期比8.5%減)となりました。

③丸醬屋部門

丸醬屋部門では、当第1四半期中に新たな出店はなく、当第1四半期末の店舗数は23店舗のまま増減はございません。

この結果、当部門の売上高は389,988千円(前年同期比4.1%増)となりました。

④長田本庄軒部門

長田本庄軒部門では、当第1四半期中に新たな出店はなく、当第1四半期末の店舗数は14店舗のまま増減はございません。

この結果、当部門の売上高は183,189千円(前年同期比20.6%減)となりました。

⑤粉もん屋部門

粉もん屋部門では、当第1四半期中に新たな出店はなく、当第1四半期末の店舗数は7店舗のまま増減はございません。

この結果、当部門の売上高は150,484千円(前年同期比26.1%減)となりました。

⑥その他部門

その他部門では、当第1四半期中に新たな出店はなく、当第1四半期末の店舗数は11店舗のまま増減はございません。

この結果、当部門の売上高は162,247千円(前年同期比11.4%減)となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第1四半期における資産の残高は、前会計年度末に比べ1,320,402千円増加し、9,744,936千円(前期比15.7%増)となりました。

流動資産につきましては、現金及び預金が前会計年度末に比べ829,606千円増加し、流動資産は2,807,569千円(前期比36.6%増)となりました。

固定資産につきましては、有形固定資産は前会計年度末に比べ374,592千円増加し、4,283,626千円(前期比9.6%増)となり、投資その他の資産は前会計年度末に比べ190,970千円増加し、2,614,939千円(前期比7.9%増)となりました。これらは、主に新規出店の投資によるものです。

(負債・純資産)

当第1四半期末における負債の残高は、前会計年度末に比べ1,128,139千円増加し、6,008,130千円(前期比23.1%増)となりました。主な増加要因は、次のとおりです。

短期借入金、1年内返済予定長期借入金及び長期借入金の合計額は前会計年度末に比べ1,314,321千円増加し、3,592,098千円(前期比57.7%増)となり1年内償還予定社債及び社債の合計額は前会計年度に比べ20,000千円減少し、420,000千円(前期比4.5%減)となりました。

負債の増加は積極的な設備投資のための資金調達によるものと、営業規模拡大による買掛金、未払金および未払費用の増加が主たる要因です。

純資産は、前会計年度末に比べ192,263千円増加し、3,736,805千円(前期比5.4%増)となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期における現金及び現金同等物は、営業活動により獲得した資金、借入により獲得した資金等を、主に店舗拡大のための設備投資等に使用したことにより、結果として、前年同四半期より364,229千円減少し、1,929,720千円(前年同期比18.9%減)となりました。

当会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は、385,805千円(前年同四半期は182,591千円)となりました。これは主に税引前四半期純利益を603,414千円、減価償却費を196,238千円計上した一方で、法人税等の支払による支出が418,218千円あったこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、734,331千円(前年同四半期は701,818千円)となりました。これは主に新規出店の伴い、有形固定資産の取得による支出が518,799千円、敷金及び保証金の支払による支出が132,255千円及び建設協力金の支払による支出が100,000千円あったこと等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により得られた資金は、1,177,680千円(前年同四半期は1,669,454千円)となりました。これは短期借入金及び長期借入金による収入が1,500,000千円あった一方で、借入金の返済と社債の償還による支出が205,679千円と、配当の支払額が116,641千円あったこと等によるものです。

3. 業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、事業領域の選択と集中を行い、投資資金をより収益性の高い業態である丸亀製麺部門を中心に展開する予定であります。

当会計年度の出店数は、前会計年度の66店舗を上回る80店舗の新規出店を計画しております。

部門ごとの出店数は、「丸亀製麺」を70店舗、その他部門を10店舗予定しており、出店形態の中心は、都市計画法の改正に伴いショッピングセンターの出店が鈍化することが予想されることから、ロードサイド店舗の出店を積極的に展開することを計画しております。

また、雇用環境の変化から人材に関する求人費用等の増加が予想されることや、営業年数を経た店舗においては、店舗施設のリニューアルも計画しており、販売費及び一般管理費率の増加を見込んでおります。

以上の状況から、通期の業績見通しにつきましては、売上高225億円、営業利益17億90百万円、経常利益17億20百万円、当期純利益7億50百万円を見込んでおります。

当社は、出店に際し、店舗の採算性を重視しておりますため、計画した店舗数に見合った出店地を十分に確保出来ない場合や、食材に係わる安全性の問題や市場変動等が生じた場合には、当社の業績見通しに影響を与える可能性があります。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

当会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

5. 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間末 (平成20年6月30日)	前会計年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,975,785	1,146,178
営業未収入金	537,768	613,363
原材料	32,659	29,732
繰延税金資産	62,758	90,128
その他	198,597	175,582
流動資産合計	2,807,569	2,054,986
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,998,054	2,730,045
工具、器具及び備品	746,640	687,338
その他	538,931	491,650
有形固定資産合計	4,283,626	3,909,034
無形固定資産	38,800	36,544
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,463,757	1,327,788
繰延税金資産	105,191	102,277
その他	1,077,390	1,022,903
貸倒引当金	△31,400	△29,000
投資その他の資産合計	2,614,939	2,423,969
固定資産合計	6,937,367	6,369,547
資産合計	9,744,936	8,424,533
負債の部		
流動負債		
買掛金	451,789	484,868
短期借入金	417,000	0
1年内返済予定の長期借入金	1,237,121	615,456
1年内償還予定の社債	160,000	160,000
未払法人税等	283,383	445,742
引当金	88,283	118,207
その他	1,164,878	1,105,697
流動負債合計	3,802,455	2,929,972
固定負債		
社債	260,000	280,000
長期借入金	1,937,977	1,662,321
その他	7,698	7,698
固定負債合計	2,205,675	1,950,019
負債合計	6,008,130	4,879,991

(株)トリドール(3397)平成21年3月期 第1四半期決算短信(非連結)

(単位:千円)

	当第1四半期累計期間末 (平成20年6月30日)	前会計年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	826,940	826,940
資本剰余金	884,588	884,588
利益剰余金	2,024,367	1,832,415
株主資本合計	3,735,895	3,543,943
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	910	598
評価・換算差額等合計	910	598
純資産合計	3,736,805	3,544,542
負債純資産合計	9,744,936	8,424,533

(2) 【四半期損益計算書】

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)
売上高	5,144,750
売上原価	1,326,263
売上総利益	3,818,487
販売費及び一般管理費	
販売費及び一般管理費合計	3,207,102
営業利益	611,385
営業外収益	
受取利息	3,648
受取配当金	29
受取地代家賃	2,771
ポイント引当金戻入額	3,158
その他	2,858
営業外収益合計	12,467
営業外費用	
支払利息	12,081
その他	7,378
営業外費用合計	19,459
経常利益	604,393
特別利益	
固定資産受贈益	4,200
特別利益合計	4,200
特別損失	
附帯税等	5,178
特別損失合計	5,178
税引前四半期純利益	603,414
法人税、住民税及び事業税	270,578
法人税等調整額	24,242
法人税等合計	294,821
四半期純利益	308,593

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位:千円)

当第1四半期累計期間
 (自平成20年4月1日
 至平成20年6月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	603,414
減価償却費	196,238
貸倒引当金の増減額(△は減少)	2,400
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△3,158
賞与引当金の増減額(△は減少)	△24,764
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	△1,824
受取利息及び受取配当金	△3,678
支払利息及び社債利息	12,081
固定資産除却損	108
固定資産受贈益	△4,200
売上債権の増減額(△は増加)	75,595
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,572
仕入債務の増減額(△は減少)	△33,079
その他	△2,058
小計	815,500
利息及び配当金の受取額	84
利息の支払額	△11,561
法人税等の支払額	△418,218
営業活動によるキャッシュ・フロー	385,805
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の増減額(△は増加)	△462
有形固定資産の取得による支出	△518,799
無形固定資産の取得による支出	△4,881
敷金及び保証金の差入による支出	△132,255
敷金及び保証金の回収による収入	12,753
建設協力金の支払による支出	△100,000
建設協力金の回収による収入	14,058
その他	△4,744
投資活動によるキャッシュ・フロー	△734,331
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	500,000
短期借入金の返済による支出	△83,000
長期借入れによる収入	1,000,000
長期借入金の返済による支出	△102,679
社債の償還による支出	△20,000
配当金の支払額	△116,641
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,177,680
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	829,154
現金及び現金同等物の期首残高	1,100,566
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,929,720

当会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項なし

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項なし

「参考」

1. 前第1四半期に係る財務諸表等

(1) 前四半期損益計算書

区分	前第1四半期累計期間 (自平成19年4月1日 至平成19年6月30日)	
	金額(千円)	百分比 (%)
I 売上高	3,646,452	100.0
II 売上原価	1,006,833	27.6
売上総利益	2,639,619	72.4
III 販売費及び一般管理費	2,336,742	64.1
営業利益	302,877	8.3
IV 営業外収益	14,878	0.4
V 営業外費用	35,366	1.0
経常利益	282,388	7.7
VI 特別損失	59,166	1.6
税引前第1四半期当期純利益	223,221	6.1
法人税、住民税及び事業税	108,042	
法人税等調整額	1,614	3.0
第1四半期当期純利益	113,565	3.1

(2) 前四半期キャッシュ・フロー計算書

	前第1四半期累計期間 (自平成19年4月1日 至平成19年6月30日)
区分	金額(千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前第1四半期当期純利益	223,221
減価償却費	140,124
出店協賛金受入益	△4,225
ポイントカード引当金の増減額	56,941
賞与引当金の増減額	△15,893
受取利息及び受取配当金	△1,499
支払利息及び社債利息	9,768
固定資産除却損	2,829
売上債権の増減額	1,970
たな卸資産の増減額	△3,037
仕入債務の増減額	21,398
その他	45,932
小計	477,531
利息及び配当金の受取額	83
利息の支払額	△8,472
法人税等の支払額	△286,551
営業活動によるキャッシュ・フロー	182,591
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の純増減額	△6,452
有形固定資産の取得による支出	△574,884
無形固定資産の取得による支出	△2,262
敷金・保証金の支払による支出	△87,253
敷金・保証金の返還による収入	1,706
建設協力金の支払による支出	△34,500
建設協力金の返還による収入	6,760
出店協賛金受入による収入	420
その他	△5,351
投資活動によるキャッシュ・フロー	△701,818

	前第1四半期累計期間 (自平成19年4月1日 至平成19年6月30日)
区分	金額(千円)
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入れによる収入	787,000
長期借入金の返済による支出	△77,643
社債償還による支出	△20,000
株式発行による収入	1,077,660
配当金の支払額	△97,563
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,669,454
IV 現金及び現金同等物の増減額	1,150,227
V 現金及び現金同等物の期首残高	1,143,723
VI 現金及び現金同等物の期末残高	2,293,950

(3) 前年度の継続企業の前提に関する注記

該当事項なし

2. 生産、受注及び販売の状況

(1) 仕入実績

当事業年度における仕入実績を部門別に示すと次のとおりです。

部門	第18期 第1四半期会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年6月30日)		第19期 第1四半期会計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
丸亀製麺	451,072	44.2	836,837	62.2
とりどーる	277,828	27.2	262,641	19.5
丸醬屋	117,264	11.5	111,367	8.3
長田本庄軒	61,826	6.1	45,346	3.4
粉もん屋	58,216	5.7	41,569	3.1
その他	55,399	5.4	47,904	3.6
合計	1,021,608	100.0	1,345,667	100.0

(注) 上記の金額には消費税は含まれておりません。

(2) 販売実績

当事業年度における販売実績を部門別に示すと次のとおりであります。

部門	第18期 第1四半期会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年6月30日)		第19期 第1四半期会計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
丸亀製麺	1,767,762	48.5	3,447,259	67.0
とりどーる	886,493	24.3	811,580	15.8
丸醬屋	374,663	10.3	389,988	7.6
長田本庄軒	230,588	6.3	183,189	3.6
粉もん屋	203,757	5.6	150,484	2.9
その他	183,187	5.0	162,247	3.2
合計	3,646,452	100.0	5,144,750	100.0

(注) 上記の金額には消費税は含まれておりません。